

要 旨

近年、周産期・新生児医療の進歩により、早産児や超低出生体重児、先天性疾患を持つハイリスク新生児の救命が可能となっている。これらの進歩に伴って、NICU を退院した後もケアを要する子どもたちが増えており、このような子どもたちの健康な発達・発育を支えるためには、子どもの状態と家族を含む養育環境を把握し、それらを安定に導く必要がある。そのためには、NICU を退院する子どもと家族に対して、退院後の生活環境を整えるために必要な支援を提供し、退院後にも子どもと家族の生活評価を再び行う必要があると考えられた。

本研究は、入院中から退院後まで継続して生活環境アセスメントツールを活用し、NICU を退院する子どもと家族の初期段階における継続看護のあり方について検討することを目的とし、NICU を退院する子どもと家族に対して入院中から退院後の外来まで実践した看護を記述した事例研究である。

今回、NICU から退院し、退院後の外来を受診した子どもとその家族 5 事例を対象とし、入院中から退院後の外来における継続看護を実践した。この 5 事例に共通する NICU を退院する子どものリスクには、呼吸器感染症のリスク、退院後早期の合併症進行のリスク、体重増加不良のリスクがあり、家族のリスクには養育環境の整備不足による母の不安や疲労が増強するリスクがあげられた。つまり、NICU を退院する子どもが呼吸器感染症に罹ることなく、早産児、低出生体重児特有の合併症を悪化させることなく、体重増加が良好な状態で、家族が協力して育児に取り組むことができるということが、NICU を退院する子どもと家族の退院後の初期段階における目標として導き出された。また、生活環境アセスメントツールを入院中から活用することで、NICU を退院する子どもの状態と家族の特性を把握し、予測される問題を抽出することが可能となり、子どもと家族に適したケアプランを立て、NICU 入院中から子どもと家族に先を見通したケアを提供することができた。退院後は再度同様のアセスメントツールを活用することで、入院中と退院後に得られる情報に連続性が生まれ、その中で子どもや家族の状態の変化やその変化の背景を捉えることが可能となり、再び子どもと家族のリスクを見極め、不足しているケアを提供することができた。そして、家族は自信をもって子どもの予防的ケアを継続することが可能となり、慢性の状態や疾患、リスクを抱えた子どもの状態と養育環境の安定を図ることができた。

したがって、NICU を退院する子どもと家族の健やかな成長発達を維持、促進していくためには、生活環境アセスメントツールを入院中から退院後の外来まで継続して活用する

ことが重要である。また、この生活環境アセスメントツールを活用し、NICU を退院する子どもと家族の継続看護を担う看護師は、専門的知識と技術、コミュニケーション能力等を駆使して情報を収集し、リスクやニーズを見極める判断力、先を見通したケアを実践する能力が必要と考えられる。そして、これらの能力を有する高度実践看護師が行う NICU 退院児のフォローアップ外来を確立させること、他の専門職者と協働して、NICU を退院する子どもと家族を支えていく継続看護を充実させていくことが、今後必要であると考えられた。